天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介

♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪

あふれでたのはやさしさだった　奈良少年刑務所絵本と詩の教室

寮　美千子／著　吹田：西日本出版社　２０１８

ここには、奈良少年刑務所内に開かれた「絵本と詩の教室」で、絵本の朗読から詩作に至るまで、さまざまな表現方法をとり入れて、閉ざされた少年たちのこころを解きほぐし、驚くような変化を導き出した著者の、足掛け十年の活動が記されています。また、関連図書に『空が青いから白をえらんだのです』という奈良少年刑務所の少年たちが書いた詩集があります。その詩の中に、「くも」という題の一行詩があります。それが表題の「空が青いから白をえらんだのです」という雲の一人称の詩なのです。少年たちの置かれていた厳しい状況や犯した罪との関連などとも考え併せて読んでいくと、単に「感動した」だけでは表せない重みとそして、さわやかさと暖かさを感じます。詩集の方も、詳しく紹介したい一冊です。

オキシクリーンとことん使い込みBOOK

徳間書店／編　東京：徳間書店　２０１９

今回私がおススメするのは、今じゃ気軽に手に入る万能洗剤オキシクリーンの本です！

我家は今でこそ大活躍ですが、以前は「なーん、たいしたことないやーん」でした。

が、この本と出会い（←おおげさ）ようやくオキシの力を発揮できたんです。

ちゃーんと効果が出る使い方があるんでＹＯ！

オキシクリーンさえあれば、もう場所ごとの洗剤はいらないらしいです…

我が家はまだそこまでマスターしていないので、この本をもっと読んで、オキシマニアになります！

かわにくまがおっこちた

リチャード・T.モリス／著　東京：岩崎書店　２０１９

今まで関わることなく生きてきた動物たち、くまが川に落っこちたことをきっかけに、次々に仲間が増え、冒険しながら川下りをします。

初めて経験することも楽しみながら挑戦できる「仲間っていいな！」と思える絵本です。

動物たちが登場するときの掛け声が可愛らしく、加わるごとに絵本の中もにぎやかに。

読んでいくうちに気持ちも入り、川下りのスピードが上がっていくように感じます。

これから成長していく子供へ、たくさんの人やものに出会い経験、挑戦し広い世界をみて、感じて、つながってほしい。この本を通して親の願いも感じました。

ひとりぼっちが最後はみんなにつながっていく。ほのぼのとした、あったかい絵本です。

天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介

♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪

2019 Autumn 2/7

その子の「普通」は普通じゃない

富井　真紀／著　東京：ポプラ社　２０１９

この本の著者は貧困家庭に育った当事者です。

自分が置かれていた厳しい生活を赤裸々に書いてあり、これほど厳しい家庭環境の中、どんな思いで乗り越えてきたか、どのようにしたら貧困の状況から抜け出し断ち切ることが出来るか、多くの示唆が示されています。

子供に関わる大人はもちろん、多くの人に読んでほしい。

そして私たち大人に出来ることはないか考えてみたいものです。

だまされた！　「だましのプロ」の心理戦術を見抜く本

多田　文明／著　東京：方丈社　２０１９

私がお薦めするのは多田文明さんの「だまされた!」という本です。

毎日のように、詐欺の被害に遭われた方のニュースをテレビ等で見たりします。

詐欺の形態もオレオレ・劇場型・メールでの偽サイトへの誘導等など詐欺の手口も巧妙かつ進化してきているのが現状でナ。

「私は詐欺には絶対騙されない」と言われる方が多くいらっしゃるのではないかと思います。私もその中の一人です。詐欺に遭ったら人生設計が崩壊します。

紹介する本には実際に騙された事例や詐欺に遭わないガードテクニック等が書かれていますのでお薦めします。

ちことゆうのおだんごやさん

まつした　さゆり／〔作〕　東京：学研教育出版　２０１０

ちこちゃんとゆうちゃんが砂場でお団子づくりをして遊んでいました。

通りかかったお姉さん達から声をかけられ、『お団子屋』さんはさらに盛り上がります。

誰でも（特に女の子）お団子屋さんごっこをしたことがあると思います。

ちこちゃん、ゆうちゃんは、その時の自分そのもの。絵本を読みながら

思わず「そうそう！」と言いたくなりますよ。

天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介

♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪

2019 Autumn 3/7

はるとあき

斉藤　倫／作　東京：小学館　２０１９

春・夏・秋・冬日本には四季があります、

『はる』は夏と冬には会えるけど、『あき』には会えません。

そこで、手紙を書いて「夏」にお願いして『あき』に届けてもらうことにしました。

そして、まちどおしい『あき』からの手紙の返信は「冬」から『はる』に届けられます…

はるとあきの往復書簡は、相手を思いながら書く手紙の温かさが伝わってくる素敵な絵本です。

たまにはメールではなく手紙を誰かに送ってみるのもよいかもしれません。

マカン・マラン

古内　一絵／著　東京：中央公論新社　２０１５

“マカン・マラン”

インドネシア語で“夜食”を意味する言葉を店名にかかげたこのお店は、夜にだけひっそり開店します。

お店を訪れる客はそれぞれ悩みを抱えていて、そのうちの誰かにきっと感情移入してしまうと思います。

そこで振る舞われる料理、そして店主のシャールさんがなにより魅力的！！

シャールさんの言葉には心に響くものがあります。

客といっしょに気持ちが晴れていくこと間違いなしです！

愛唄　約束のナクヒト

［GReeeeN／脚本］　東京：朝日新聞出版　２０１８

GReeeeNの曲が映画になり、今をときめく俳優「横浜流星」が主役というのに惹かれ、読んでみました。

余命わずかと宣告されながらも、友と詩との出会いによって、限られた命だからこそ気づいた大切なこと、

愛すること生きることの喜びが描かれています。読んでいて涙しました。

秋の夜長GReeeeNの曲をBGMに読んでみてはいかがですか？

天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介

♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪

2019 Autumn 4/7

化物語

西尾　維新／著　東京：講談社　２００６

春休みに吸血鬼に襲われ、その時の影響で驚異的な回復能力を手に入れた高校生・阿良々木(あららぎ)暦(こよみ)と、

猿の手など、怪異に巻き込まれた少女たちの物語。テレビアニメとして放映されていたこともあり、

見たことがあるという方もいらっしゃるのではないでしょうか。上下巻合わせて怪異に巻き込まれた５人の少女の物語があり、

一つ一つがボリュームのある内容となっています。秋の夜長にじっくりと本を読みたいという方にお勧めしたいです。

吉田松陰

童門　冬二／著　東京：学陽書房　２００１

吉田松陰は皆様もご存じのとおり、叔父の玉木文之進が設立した私塾松下村塾で短い期間（享年２９歳）の中、幕末より明治期に日本を主導した初代首相伊藤博文（幼名俊輔）など多くの人材を輩出したことで知られている。

佐久間象山を師と仰ぎ、門弟のために著した遺書「留魂禄」が有名である。

春に種を蒔き、夏に苗を植え、秋に刈り取り（実る）、冬にそれを貯蔵（蔵）する。

（四時ノ循環）四季を我が人生の過程として６４歳の半ばも過ぎて反省する近頃である。

また、文章構成の「起承転結」に例えるならば人生８０年我が人生も結の時代へと。

この本の中から「自分という人間が、この世で少しでも役立っている」という『存在の意義』と『社会への寄与度（貢献度）』を知ったときである。これがつまり、“生きがい”であり、仕事の“やりがい”につながるのだの一章。「出会ったときに、その人物から何を学び、何を得るのか、そう考えれば、人との出会いは無限の機会である」との一章を得、自分の行動規範として「起承転結」の「結」の時代を地域への関わり方として、有意義に生きていこうと思ったところである。

私にとっては人材育成（人生育成）の本であり、童門冬二の筆致を久しぶりに味わった本でもあった。

天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介

♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪

2019 Autumn 5/7

銀二貫

高田　郁／著　東京：幻冬舎　２０１０

なんとも読後感のさわやかな小説。銀二貫で敵討ちを買った寒天商・和助。助けられた鶴之輔（のちに松吉と名乗る）

は大番頭の善次郎から商人としての矜持を学びながら新しい商品を開発、りっぱな商人として成長していきます。

ラストシーンに涙、涙、涙。未知の世界だった時代小説にハマりました。

子どもの心　親にも先生にも言えなかった…

二木　克明／著　東京：１万年堂出版　２００５

小さい子供たちの行動・言葉を見たり聞いたりしていると、びっくりしてものすごい可能性を秘めていると思う。

上から頭ごなしに押し付けるのではなく、こういう考え方もあるんだということを理解して、

子供たちの立場になって考えを尊重し、寛大な気持ちをもって対応して行くことにより、

のびのびと成長し、いじめとか虐待も減り成長していけるのではと思います。

虫ぎらいはなおるかな？

金井　真紀／文と絵　東京：理論社　２０１９

虫ぎらい歴40年余りの著者が、虫ぎらいを脱したいと思って虫に関わる7人の達人に会いに行く。

最後には「虫好きの聖地」と言われているらしい多摩動物公園の「昆虫園」に行き…。

果たして虫ぎらいは克服できるのか！？

私も虫ぎらいなので気になって読んでみました（克服しようなんて考えもしなかったですが…）。

虫ぎらいの共感からはじまった読書ですが、昆虫の生態、虫に関する歴史など、虫の新たな一面を知ることができ、何より昆虫の達人たちの言葉があたたかく心に響きます！虫に対する態度が少し変わったかも？

天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介

♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪

2019 Autumn 6/7

銃

中村　文則／〔著〕　東京：新潮社　２００３

ある日、偶然拾った銃をきっかけに青年の運命は動いていく…。

今更紹介する必要のない作家と作品かもしれない。

なので、ただひたすら作家に対しての個人的な愛をぶつける事にする。

私が知らないだけかもしれないが実際に銃を拾う事なんて、宝くじの１等に当たるより確率は低いだろう。

しかしこの作者は、既視感さえ覚えさせるほどすんなりと現実に溶け込ませてくる。

この「銃」だけでなく、中村さんの作品の主人公は世間的には一癖ありそうな人が多いが、そんな人たちにも光を与えている気がする。

最後に、あとがきによく書かれている一文で救われている人がどれだけいるだろう。

「教団X」のボリュームも圧倒的だけれど、まず『銃』から手にとってみてほしい。

キャラ絵で学ぶ！仏教図鑑

山折　哲雄／監修　東京：すばる舎　２０１９

仏教は今から約２５００年前インドでお釈迦さまが説いた教えです。

この本では、楽しいイラストで分かりやすく仏教を説明してくれています。

仏教は、メチャおもしろい！とおもえる一冊です。

天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介

♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪

2019 Autumn 7/7

花さき山

斎藤　隆介／作　東京：岩崎書店　１９７８

私のおすすめは、滝平二郎・絵　斎藤隆介・作「花さき山」という絵本です。

９歳のおんなの子「アヤ」が山深く迷いこんで一面きれいな花が咲いている場所に遭遇します。そこで、「やまんば」と出会い、この花がどうして咲くのか、山がどうやってできるのか教えてもらいます。村に帰った後、その事が本当の事だったのか、夢だったのかわからなくなります。でも「アヤ」の心の中に、「花さき山」となって残っていきます。

子どもの頃聞いたお話ですが、おぼろげに覚えていたお話が、大人になって自分の目で見て読んでみると、とても大切な事を教えてもらえる本です。

盲目的な恋と友情

辻村　深月／著　東京：新潮社　２０１４

男女の、そして女友達の盲執を描き切る長編作品。

自分勝手な欲望・嫉妬・自己満足・コンプレックス・憎悪・・・

人間の持っている負の感情が、これでもか！というくらい追いかけてくるダークな内容。

キーとなる２人それぞれが一人称視点で、また同じ時間軸で語られ、彼女たちの思考は一見歪んで見えるものの、「その気持ちはわからなくもないな」と思わされるリアルな心理描写にドキッとします。

最後の最後でタイトルのラブストーリーであることに納得。ドラマ化されても面白そうな内容なので、ドキドキハラハラしながらサクッと読めると思います。

装丁もとても美しく、私のお気に入りの一冊です。

走る奴なんて馬鹿だと思ってた

松久　淳／著　東京：山と溪谷社　２０１９

タイトルを見て「まさしくその通りだなぁ」と何気に手に取ってみた一冊。

全くスポーツと縁がなかった著者が体調不良改善のために始めたマラソンになぜ「ハマった」のか。

そして、最終的にフルマラソンに参加するまでを綴ったエッセイです。

著者がランアプリの結果を見ながらにやにやとお酒を飲んでいる姿を見ている（読んでいる）と、「自分も走ってみようかなぁ」とソファーでゴロゴロしながら思ってしまうようなゆるーく読めたおすすめの一冊です。

ちなみに、役立つ技術論やためになるノウハウ、長く続けるコツのようなものはほとんどないので本気の方は別の本をまず読んでからのほうがいいと思いますよ。